山口博物館所蔵　幕末維新資料ガイド①

「ほっとやまはく」タイム㊾

県立山口博物館では、1912年の開館以来、幕末維新関係資料の収集に努め、現在約2100点の書画や文書、道具等を所蔵しています。今回からシリーズで代表的な資料を紹介してみたいと思います。

毛利敬親肖像（原田直次郎筆、油彩・カンバス、一面）

毛利敬親（1819～71年）は、長州藩13代藩主。幼名猷之進（みちのしん）。名は慶親、後に敬親と改めました。贈り名から忠正公と称されます。1837（天保8）年4月に家督を継ぎ、激動期の藩政を担いました。69（明治2）年1月、薩摩、土佐、肥前の藩主と共に版籍奉還を上表し、家督を世子・元徳に譲って隠居しました。71（明治4）年3月、山口で死去。墓は、山口香山墓所（国史跡「旧萩藩主毛利家墓所」）にあります。本像は、66（慶応2）年12月、三田尻停泊中のイギリス艦上で、イギリス海軍キング提督らと撮影した写真をモデルにして敬親の没後に描いたものです。毛利家伝来品。

毛利敬親肖像

毛利敬親書「格非心」（紙本墨書、一幅）

長州藩の家老、浦靱負（うら・ゆきえ）が、藩主毛利敬親から賜って秘蔵していた大判の書幅です。「格非心」は、孟子の「ただ大人（たいじん、徳の高い立派な人）のみ能（よ）く君心の非を格（ただ）すを為す」によっています。敬親は、家臣の意見を聞くことに努めましたが、本書は、自身の姿勢に非があれば批判してくれるように、もしくは家臣に自分を批判できるよう成長してほしいとの意を示したと思われます。毛利家伝来品。

敬親書「格非心」

毛利敬親、キング提督、毛利元徳（左から）

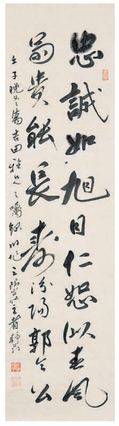
毛利元徳肖像（コンテ、紙、一面）

毛利元徳（広封、定広、1839～96年）は、支藩の徳山藩毛利広鎮（ひろしげ）の10男。54（安政元）年、毛利敬親の世子となりました。贈り名から忠愛公と称されます。69（明治2）年に家督相続後は、山口藩知事、貴族院議員を務めました。墓は、毛利敬親と同じ山口市の香山墓所にあります。作者は、明治天皇や西郷隆盛の肖像で知られるイタリアの銅版画家E・キヨッソーネです。毛利家伝来品。

毛利元徳肖像

村田清風詩書（紙本墨書、一幅）

長州藩の藩政指導者、村田清風（1783～1855年）と吉田松陰の交流を示す書幅です。1845（弘化2）年、16歳の若き松陰は、職を辞して故郷の三隅山荘に帰住した63歳の清風の元を初めて訪ね、諸国遊歴を勧められるなど、清風が松陰に与えた影響は多大でした。本書は、奥書に記されているように、52（嘉永5）年晩冬に、松陰の依頼で清風が旧作の詩を揮毫（きごう）したものです。



村田清風詩書

村田清風肖像

山田稔（主任、歴史担当学芸員）

▽次回は25日です。

山口県立山口博物館
ＴＥＬ083－922－0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで